

1人1台端末を活用した教育の充実

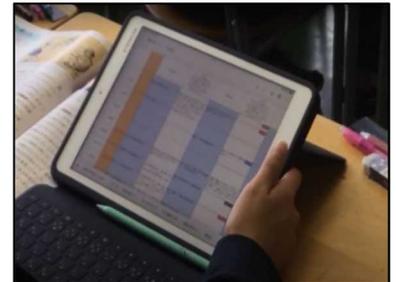
中核校	旭川市立大有小学校	指定校	旭川市立北門中学校、旭川市立近文小学校 旭川市立北光小学校
-----	-----------	-----	----------------------------------

実践前の状況

- ・1人1台端末の導入により、授業におけるICT活用が進んでいるが、「紙」による授業の代替的な活用にとどまり、「教育DX」としてのICTを活用した授業実践が難しい。

実践の概要

- 1人1台端末を活用した児童が主体となる授業への転換
- ・「探究的な学習過程」のもと、「大きくりの学習問題」の中で、児童が自分の課題を設定し、1人1台端末を活用して、学習内容や学習方法を「選択」しながら学習を展開するなどの「個別最適な学び」の充実を図った。
 - ・クラウドを活用して、「他者参照」しながら学習を進めることにより、児童が自分のタイミングで友達の考えを取り入れたり、同じ課題について学んでいる友達と交流したりするなどの「協働的な学び」の充実を図った。
- 児童一人一人のニーズに応える1人1台端末の持ち帰り
- ・児童一人一人が各家庭において、教育ソフトを活用して苦手な教科・分野や、もっと伸ばしたい教科・分野などについて、「選択」して学んだり、授業で調べきれなかったことや、次時の個人課題について学んだりするなど、授業と家庭での学びを関連させた学びに取り組んだ。



【他者参照で学びを深める授業】



【端末で取り組んだ家庭学習】

実践の充実に向けた取組の工夫

〔校長の取組〕

- ・グランドデザインに「学校教育DX」の取組を位置付け、学校教育DXや授業改革を推進する担当者（授業改善マネージャー）を中心に、年間を通してマネジメントする体制を構築した。

〔授業改善マネージャーの取組〕

- ・授業研修会を年間3回実施し、全教員が授業公開することをとおして、児童に学習内容や学習方法を選択・決定させるなどの「児童が主語となる学び」を目指すことを学校全体で共有し、全員で授業改革に挑戦した。
- ・クラウドを活用し、宿題や家庭学習、長期休業中の課題などのタブレット端末の日常的な活用を促進した家庭学習と日常の授業を連動させた学力向上の取組など、学校外でのタブレットの活用に取り組んだ。

成果（ ）と今後の課題（ ）

日常的に1人1台端末を活用した授業改革に取り組み、日常の校務のICT化やICTを活用した校内研修等をとおして、教員一人一人のICT活用指導力を向上させることができた。

〔学校評価（教職員）の「ICTを積極的に活用したり、教材研究の効率化を図ったり、授業を工夫したりするなど、効果的にICT機器を活用している」の項目について、肯定的な評価が増加した。（R4：88.5% R5：100%）〕

今後さらに、ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるとともに、中学校区において、管理職、主幹教諭、担当教諭の各層で情報交換と共通理解を図り、9年間を見通した学びの連携・一貫を推進する必要がある。